

親子で読む



# こどもタイムズ

## 寄付のおもちゃ、ミャンマー到着

①おもちゃを手で喜ぶ子どもたち②おもちゃの楽器も届けられた

使わなくなったおもちゃを無料で修理する「おもちゃ病院伊都国」に寄付された品々が3月、ミャンマーの孤児院の子どもたちに届けられました。おもちゃの寄付は今回で3回目。おもちゃ病院の顧問、波多江保彦さん(84)は「私は子ども達の頃におもちゃをいじる中でエンジニアの道に進んだ。ミャンマーの子どもの人生が広がるきっかけになればうれしい」と喜んでいきます。

ミャンマーは今、国軍が力によつて人々を支配し、安心して暮らせない状況が続いています。地域によっては空爆も続いています。おもちゃを受け取り、現地に届ける準備をした福岡ライオンズクラブ

### 「人生広がるきっかけに」



(LC)の瀧野隆さん(80)は「ミャンマーでは港でおもちゃが盗まれたりすることも。無事に届くまでずっと心配していた」と話し

集まりました。点検や修理をし、おもちゃの寄付は「こどもタイムズ」などで呼びかけ、約300個が

箱に詰めるとその数は30箱にもなりました。おもちゃは9月末に発送し、その後、船に載せられ東南アジアの他の国を経由し、ミャンマーへ。ヤンゴンLC会長が受け取り、2、16歳の計350人が生活するヤンゴン市内にある二つの孤児院の子どもたちに3月19日に配られました。

おもちゃの種類は人形や楽器、車や飛行機などさまざま。孤児院はおもちゃを手にした子どもたちの熱気に包まれたといいます。コロナ禍前までヤンゴンで9年間暮らし、孤児院の支援をしていた瀧野さんは「ミャンマーでは立派なおもちゃはそう簡単に手に入らない。おもちゃなどを通じた交流を続け、いつか大人になった子どもたちが日本で勉強したり、仕事をしたりするきっかけになれば」と話しています。

(中野慧)